

第3回 北陸新幹線の工程・事業費管理に関する検証委員会 主なご指摘事項

令和2年11月30日（月）17:00～19:00

於：中央合同庁舎3号館1階共用会議室

リスク要因の分析について

- 事業全体におけるリスク要因の中に工期短縮策で対応可能として整理しているリスクが包含されるよう、全体リスクを精査されたい。そうした上で、工期短縮策に係るリスクが事業全体におけるリスク要因のどこに位置付けられているものか整理ありたい。
- 過去に顕在化したリスクと今後発生する可能性のあるリスクとその対応についても、それぞれを別に整理する必要がある。
- 事業全体におけるリスク要因について、事業フローの中のどの時点で発生するものか整理ありたい。また、各リスク要因について具体的なリスクを整理しているが、その影響度合い（「大」「中」「小」）それぞれに対応するようリスク要因の分析を行い、網羅的に整理すること。

敦賀駅のさらなる工期短縮策の検討について

- 作業員の休日だけではなく、管理するプロジェクトマネージャーの休日にも配慮が必要。
- 3年前倒しを受けて余裕しろが全くない状態だったと思うが、今回の工期短縮の検討について、設定する工期とリスクとの関係を上手く整理できれば良い。
- 機構職員の増強も検討すべき。

加賀トンネルの盤ぶくれ対策について

- 加賀トンネルについて、クラックが入った範囲を具体的に示す必要がある。クラックの幅等に応じて固定ボルトの本数を変えていることと、対策によって耐力が対策前の概ね倍になっていることが明確に分かるように説明すべき。
- 加賀トンネルは、過去の教訓を活かして盤ぶくれ対策を行ってきたが、それでも盤ぶくれが生じたということが一般の人に分かりやすく説明できるように、今回は示されなかったが外力の大きさを示すか、あるいは、地山の強度がトンネル掘削前と比較してどの程度弱くなっていたか示せるとよい。

全体工程の変遷について

- 工程が遅れている工区について、どのような対策を講じてきたのかをより具体的に説明すべき。その上で、ここが問題だったということを明確にすべき。ラムサール条約の関係で、ルートを変更しているとの説明があったが、このルート変更は外力として整理しておくべき。
- 事業費管理の経緯を検証するためには、全体工程がどのように変わってきたかを分析したのと同様に事業認可時点から、全体事業費がどのように変わってきたかをリスク事象との関係から分析を行う必要がある。

工期遅延・工事費増嵩に関する事実関係の評価・分析について

- 工事費の増嵩について、国や公共団体に対してどのように情報を伝える必要があるのか、事前に協議が必要である場合、事後速やかに報告すべき場合、一定期間後にまとめて報告すれば足りる場合等、あらかじめルール化しておく必要がある。